

地震発生のおきみ

地球の表面は十数枚の「プレート」という固い岩石の層に覆われています。このプレートは大陸や海をのせてゆっくり動いています。これらのプレート同士がぶつかったり押し合ったりして、プレートに力が加わり地盤が破壊されます。これが、地震の主な原因です。

さらに細かく見てみると、地震が起こる場所や起こる原因などによっていくつかのタイプがあります。代表的なものとしては、プレート同士の境界付近で起こる海溝型地震や活断層で発生する内陸直下の地震などです。

①海溝型地震

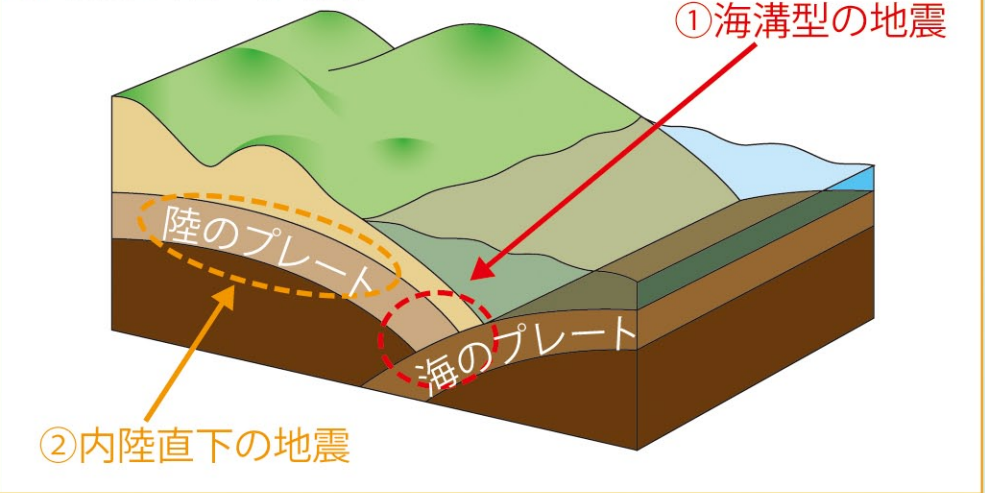
海のプレートが沈み込むときに、陸のプレートを一緒に引きずり込みます。この時、陸のプレートがその力に耐えきれず、元に戻ろうとするときに地震が発生します。平成23年の東日本大震災や今後発生が予想されている東海地震、東南海地震などがこのタイプの地震です。

②内陸直下の地震

海のプレートが陸のプレートを押すことで、海や陸のプレートに様々な力がかかり、プレート内の弱い部分が破壊され、地震が発生します。

このような内陸直下で起こる地震は、人が住んでいる場所のすぐ下で起こることもあり、その場合は大きな被害が生じます。平成7年の阪神・淡路大震災や平成16年の新潟県中越地震はこのタイプの地震です。

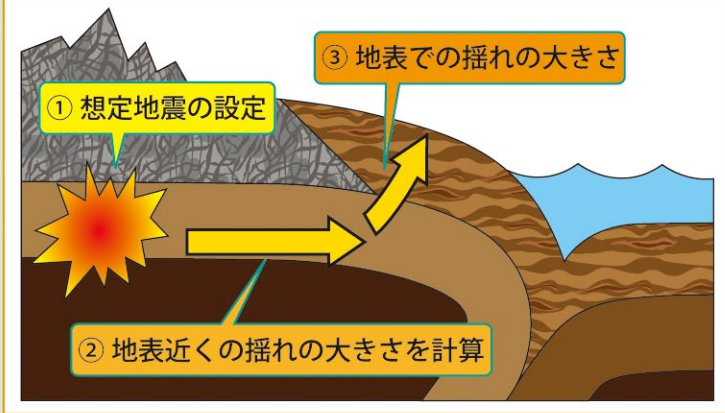
地震が起こる場所



揺れやすさマップができるまで

市内の地点ごとに考えられる最大震度を示したのが、「揺れやすさマップ」です。このマップは、地震防災マップ作成技術資料(内閣府, 平成17年3月)を参考にして、次の手順で作成しています。

- 1 甲斐市に大きな影響を与える事が予想される地震を選び、震源や規模などを設定
- 2 それぞれの地震について、震源から距離と揺れの強さの関係をj用いて、地表近くの硬い地盤までの揺れの大きさを計算
- 3 表層地盤の揺れやすさを加味して、想定される地震ごとの震度分布図を作成
- 4 想定される地震ごとの震度分布図のうち、その地域で最も大きな震度を採用し、揺れやすさマップを作成



甲斐市周辺の活断層



甲斐市で想定される地震

	①海溝型の地震			②内陸直下の地震						
想定地震	南海トラフ (東海・東南海・南海) の巨大地震 (マグニチュード9程度)			糸魚川ー静岡構造線 断層帯南部 (マグニチュード7.3)		曾根丘陵断層帯 (マグニチュード7.3)				
地震の概要	太平洋沿岸で繰り返し発生している大地震のうち、最大規模を想定したものです。 地震が発生すると、市の南部で震度6弱、北部では震度5強の揺れが想定されています。			現在確認されている活断層の長さ等をもとに地震の規模を仮定し、地震動を予想したものです。 地震が発生すると市南西部の釜無川沿いでは震度6強が、市中心の広い範囲では震度6弱が、また北部の山地部で震度5強の揺れが予想されています。		市の南側に位置する断層の活動によるもので、地震が発生すると市南部で震度6弱、北部で震度5強の揺れが予想されています。				
甲斐市の予想震度										
震度階級	震度5弱		震度5強	震度6弱	震度6強	震度6強	震度6強		震度7	
計測震度	4.5～4.9		5.0～5.4	5.5～5.9	6.0	6.1	6.2	6.3	6.4	6.5～

※ 震度6強を超えると、建物の被害が急激に大きくなります。(10ページの図参照) そのため震度6強は、計測震度を0.1きざみにし、より細かく表示しています。
甲斐市内では、計測震度6.2を超える揺れは予想されていません。